Intertek Certification Japan Limited

# Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.44（2014年4月発行）

## 「ブランド」という名の大切なもの

インターテック・グループ人事総務部長　小澤 陽太郎

「ブランド（Brand）」と言いますと、一般に「ブランド物」というように、高級かつ人気のある装飾品や衣服などを連想させます。しかし、このBrandという言葉は元々、自分の家畜などに焼印を施し、他者の家畜と区別するために使われたものだそうです（Wikipediaより）。言わば、目印やタグなどの付属物に過ぎなかったのです。しかし、その商品やサービスが優れていることが消費者の間で評判になると、単なるタグだったものが価値を持ってきます。

ブランド（目印やタグ）そのものを有難がって、本来の品質や価値が分からなくなると、そこに目をつけて「一発儲けてやろう」という不届き者が現れます。いわゆるコピー商品や贋物の横行、商標権の侵害です。日本でも、そのような意識の低い時代があったのでしょうが、今の世の中では「ブランド」の持つ価値というものが、かなり一般に浸透しています。

私は、当社の社名変更にあたって、「ブランド」のもたらす利益や逆に不利益について、思いを新たにしています。営業を担当する社員が自分の会社名をブランドとし、大切に扱う。お客様に対し、「当社の審査（商品）は、他社のものとはここが違います。」と言って差別化を訴求する。そのときにお客様に「良質な商品、サービス、付加価値＝あのブランド」と知っていただく。これはとても大切なことです。

しかし、一度失墜すると、企業の存続まで危ぶまれる。ここがブランドの怖いところです。「粗悪な商品、サービス、価値のないもの＝あのブランド」になってしまうのです。かつて、誰もが知っていた日本でも冠たる食品ブランドが、企業の不祥事とコーポレート・ガバナンス（企業統治）の拙さが災いして、消滅してしまうという事件がありました。

営業面だけではありません。私は人事担当者として、たくさんの応募者の方と面接をしますが、このとき、「採用する側」「採用される側」という壁をなるべく取り払うようにしています。「採用する側」という意識が強いと、面接はどうしても上から目線になります。応募者の方は面接からの帰途、「何だ、あの態度は。いくら採用側だからと言って、何とも不遜な態度だ。」という感情を抱くでしょう。友人に「あの会社はとんでもないよ。」と、不愉快な思いを告げることになります。これもブランドを傷つけることに他ならない、と私は思っています。

私達には「審査員・社員が当社のブランドです。」というキャッチ・フレーズがあります。新たなブランドである「Intertek Certification」を社員一人ひとりが大切にし、守り、お客様に伝えてゆきたいものです。永い間私達を支えてくれた「Moody」という大切なブランドへの感謝とともに。

CONTENTS

01 「ブランド」という名の大切なもの
02 特集
03 東日本大震災から3年
ー再生に向けてー
JISについて
全国生コンクリート工業組合連合会／全国生コンクリート協同組合連合会
カイハツ生コン岩手グループ：KNI
石巻カイハツ生コンクリート株式会社
04 News & Topics
ISO9001、ISO14001次期改正動向情報について
ISO22000認証対象カテゴリー拡張
ISO27001：2013発行について
05 審査の現場から
お客様紹介
（日本製紙株式会社 石巻工場）
06 連載よみもの
審査員リレーエッセイ
「アマチュア無線で南極（昭和基地）との交信が夢」（審査員　渡邉 寿彦）
環境よみもの
「環境とISO14001」
07 お客様からのお便り
「感動創造企業として」
（株式会社平田牧場）
「震災を乗り越えたものづくりへの思い」
（株式会社クラタ耐火物）
08 研修コースのご案内
社名変更のお知らせ
コースのご紹介／受講生からのお便り

◇Intertek News（旧 MIC情報通信）のバックナンバーは弊社ホームページでご覧頂けます。http://www.moodygroup.co.jp
発行 インターテック・サーティフィケーション株式会社

# 東日本大震災から3年

## ー再生に向けてー

東日本大震災から3年。今なお震災の傷跡が残る被災地では、多くの方が厳しい状況にあり、復旧・復興にはまだ時間が必要です。今号では、復旧工事には欠かせない生コンクリートの安定供給に尽力されている全国生コンクリート工業組合連合会／全国生コンクリート協同組合連合会会長 阿部氏のお話と、自社も被災する中、復興事業に取り組まれている生コンクリート製造会社のお客様をご紹介いたします。あらためて震災について考えるきっかけにして頂ければ幸いです。（編集部）

## インターテック・サーティフィケーションのJISについて

鉱工業製品に使用されるJISマーク表示制度が平成17年に新JIS制度へ移行したのを機に、弊社ではISOの認証サービスに加え、平成19年に関東経済局より生コンクリート製品のJIS認証機関（JIS A 5308　レディーミクストコンクリート）として認定され認証サービスの提供を開始しました。

弊社でISOマネジメントシステム規格を認証頂いているお客様には多くの建設会社様があり、生コンクリートが建設資材として使用されています。ISO認証業務の経験を活かして、“日本の建設業界への寄与”を目指し、国内規格のJISマーク表示制度の認証に取り組みました。現在では全国で約90工場のお客様にご登録いただいております。

弊社では、常にお客様をビジネスパートナーとして考えています。ISO認証審査経験が豊富なJIS審査員も多く、形式よりも現場で活かされるJISの運用に視点を置きながらお客様の自主性を尊重した審査を心がけています。

審査費用のお見積り、お問合せは弊社東京営業部まで（03-3669-7436）。ご要望に応じて営業スタッフが訪問説明にお伺い致しますので、お気軽にご用命ください。

## 全国生コンクリート工業組合連合会／全国生コンクリート協同組合連合会

会長　阿部 典夫

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々は復興活動に取り組まれていることと思います。甚大な被害を受けた被災地が可能な限り早期に復旧・復興するように当連合会も最大限努力し、貢献して参りたいと思います。

さて、生コンクリート製造業界も、生コンクリートの初出荷から60年を経過し、その間全国生コンクリート協同組合連合会、全国生コンクリート工業組合連合会が設立され、全国生コンクリート品質管理監査会議を発足させて品質の向上を図るなど様々な活動をして参りました。その結果、地域インフラの整備、安全・安心な街づくりに多少なりとも貢献できたと自負しております。しかしながら近年は生コンクリート製造業を取り巻く環境も大変厳しいものとなってきております。業界としても工場の集約化を中心とした構造改革に着手し、現在4年目を迎えており、需給バランスが取れるように今後も努力して参ります。

また、今後はエコ舗装など環境に配慮した新需要開拓の推進などにも取り組み、地域社会に貢献できる業界にするとともに、法令遵守、業界の地位向上等、業界の発展に微力ながら取り組んで参るつもりです。

## 1 カイハツ生コン岩手グループ：KNI 様

カイハツ生コン岩手グループ様は、盛岡カイハツ生コンクリート株式会社（1969年設立）を母体に、岩手県、秋田県の4社7工場で形成されており、2005年にISO9001（レディーミクストコンクリートの製造業）、2008年にJIS認証（弊社に変更）を取得されています。JIS規定に基づくきめ細やかな品質管理システムが確立され、また社内標準化体制に導入されたISO活動も日常的なものとして浸透しており、業界の模範となる統合システムの構築が期待されます。年4回のグループ会議では、組織内の意識統一とマンネリ防止に取り組まれ、また社内コミュニケーションも良好で情報の共有化により必

要な改善活動と技術向上にも繋げられています。

母体である盛岡カイハツ生コンクリート様は、岩手県生コンクリート工業組合に所属しています。東日本大震災では同組合の複数工場が甚大な被害を受け、災害対策本部を設置して早期の回復に尽力されました。また、同組合では、「中小企業近代化促進法」に基づく構造改善計画により生コンクリートの製造技術の開発、品質管理や試験技術の改善、向上を目的に2か所の技術センターを設立、運営されています。

お客様より「難しいコンクリートはカイハツ生コンへ」と言われる程の信頼と評価を得られており、今後の更なる活動が期待されます。

工場プラント

## 2 石巻カイハツ生コンクリート株式会社 様

石巻カイハツ生コンクリート株式会社様は、宮城県東松島市で1968年に設立されました。2007年にISO9001、2008年にJIS認証（弊社に変更）されています。海岸から1キロの場所にありますが、東日本大震災では、津波の高さが2メートル近くに達し、主要な機械をはじめ甚大な被害を受けられました。震災直後の社内会議では、従業員の安否確認や被害報告で工場の被害状況が明らかになる中、5月連休明けを目標とした復興宣言が社長様より出されました。泥除去、機械・設備の修理など懸命な復旧作業の結果、5月末にようやく工場が再稼働されました。

震災から約1年後のISO9001審査では、敷地内にまだ災害の爪痕が残る状態でしたが、2年後の審査では、震災復旧工事による受注が増大する中、顧客の要望に対応し、地域に多大な貢献をされていることが見受けられました。震災時、会社の存続自体も危ぶまれる程の被害の中で早期に再操業にこぎつけたのは、社長様をはじめ従業員の方々の復興にかける強い意志によるもので、今後の地域の復興計画にも使命感をもってあたっていきたいとのお言葉がありました。

昨年、復旧・復興事業を円滑に進めるため、生コンクリート仮設プラント設置事業者のプロポーザル方式選定が行われました。同事業は、復旧・復興事業の本格化に伴う建設資材の需要増大による資材不足を解消し、安定的供給を確保するため、県主導で生コンクリートプラント施設を確保することを目的としており、最優秀提案者として同社が所属する石巻地区生コンクリート連合体のJV他が特定されました。

プラントの年間総出荷能力は27万立方メートルが想定されており、現在プラントの建設を進め26年4月の稼働開始を予定されています。今後もより一層、地域貢献に繋がる事業の展開が期待されます。

震災直後の本社建屋

現在

**小野寺 洋**
（おのでら ひろし）
営業部
東北地区担当マネージャー
仙台市在住

1月2日、宮城県塩釜港には、観光船「鳳凰丸」が穏やかにゆったりと繋がれていた。隣接する仮設市場には親子連れの笑顔も。痛々しく陸に乗り上げた船や瓦礫はもう見られない。

東日本大震災の被災地に3度目の正月が訪れた。世界中の善意に心より感謝しつつ復興への歩みを確かに感じた。あれから3年。今なお仮設住宅等で避難生活を送る人は10万人。「家族と暮らしたい」「古里に戻りたい」・・・住宅再建は最も重要な課題。皆の安穏と希望を抱き前進していかれる事を願わずにはいられない。

一方、試練を使命に変え悩める友、企業家の声に耳を傾け“支え合いの絆”を広げている名も無き庶民のリーダーも増えてきた。利他の尊き行動に希望の光を感じる。

『人間は負けるようには造られていない・・・負けはしないんだ』（ヘミングウェイ「老人と海」）

## ISO9001、ISO14001 次期改正動向情報について

日本マネジメントシステム認証機関協議会（英文名称：Japan Association of Management System Certification Bodies、略称：JACB）は、IAF（国際認定機関フォーラム）加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関の協議会です。第三者認証制度の健全な普及、発展に貢献することを目的とし、マネジメントシステム認証活動の質の向上及び機関の地位向上のため日本国内でさまざまな事業活動を行っています。

現在改定作業が進んでいるISO9001、ISO14001の情報についても、JACBのHPにて公開されています。

**【公開内容】**

・JACB HP：
http://www.jacb.jp/index.html
・コーナー：
「ISO9001／ISO14001改正情報」
・公開情報：
両規格共通情報、ISO9001次期改正の状況、ISO14001の次期改正の状況

上述の各項目について、Q＆A方式で分かりやすく説明されており、今後順次情報が公開される予定になっていますのでご参照ください。

## ISO22000認証対象カテゴリー拡張

食品安全確保への取り組みは今や世界的課題です。相次ぐ食品に関する事故や事件では、単に発生源の企業のみならずフードチェーン全体への影響が見られ、このような状況では各事業者が自らの責任として安全確保の仕組みを整備していくことが重要です。食品安全マネジメントシステム規格 ISO22000 は、フードチェーン組織を幅広く対象としており、リスクマネジメント強化に有効なツールとなります。導入により組織的な安全管理を効果的に行えるばかりでなく、対外的な信頼性を高めることもできます。世界的な認証数も増加しており、今後もさらに高い需要と関心が予想されます。

弊社では、2月13日付でさらに認証対象カテゴリーを拡張しました。（右表参照。内容詳細についてはお問い合わせください。）

また、ISO22000 に TS22002-1 を加えた食品加工製造業向けの新しい食品安全認証システム FSSC22000 の審査も行っております。お気軽に弊社東京営業部までお問い合わせください。

**ISO22000認証対象カテゴリー**

| コード | カテゴリー | 認定 |
|---|---|---|
| A | 畜産・水産業（動物） | ○ |
| B | 農業（植物） | |
| C | 加工1（腐敗しやすい動物性製品） | ○ |
| D | 加工2（腐敗しやすい植物性製品） | ○ |
| E | 加工3（常温での長期保存品） | ○ |
| F | 飼料生産 | ○ |
| G | ケータリング | ○ |
| H | 流通 | ○ |
| I | サービス | |
| J | 輸送及び保管 | ○ |
| K | 装置の製造 | |
| L | （生）化学製品製造 | ○ |
| M | 包装材料製造 | |

※一部限定認定含む。

# INFORMATION

## ISO27001：2013発行について

ISMS認証部スキームマネージャー　**江澤 雅男**

**ISO27001:2005の改訂版が、2013年10月1日にISO27001:2013として発行されました。今回は2014年2月17日時点の情報で、以下に概要をご説明致します。**

### ❶ 2013年版の変更概要について

(1) 既にISMS認証を取得されている組織におかれましては、現在の仕組みを大幅に変更することはありませんが、計画段階での経営的な観点での見直し等が必要となります。

(2) ISO27001:2013はすべてのISOのマネジメントシステム規格と整合するように、箇条の章立て、要求事項の文章、用語および定義がISO専門業務用指針の附属書SLに従うように見直されました。

(3) 2005年以降の技術の遷移、数年の実践経験、組織からのフィードバックを考慮しました。

(4) 附属書Aについては、分類が11から14に増えましたが、管理策は133から114に減っています。

### ❷ 新規認証取得される組織

ISO27001:2013での新たな認証取得が可能です。しかし、ISO27001:2005での新規取得をされるには、本年9月末日までに初回審査の認証手続きまでを終えている必要があります。

### ❸ 既にISO27001:2005で認証取得されている組織

(1) 2015年9月30日までに、2013年版への移行審査を伴う審査を受け、弊社での認証の承認までを終えて頂き、ISO27001:2013版に適合している必要があります。

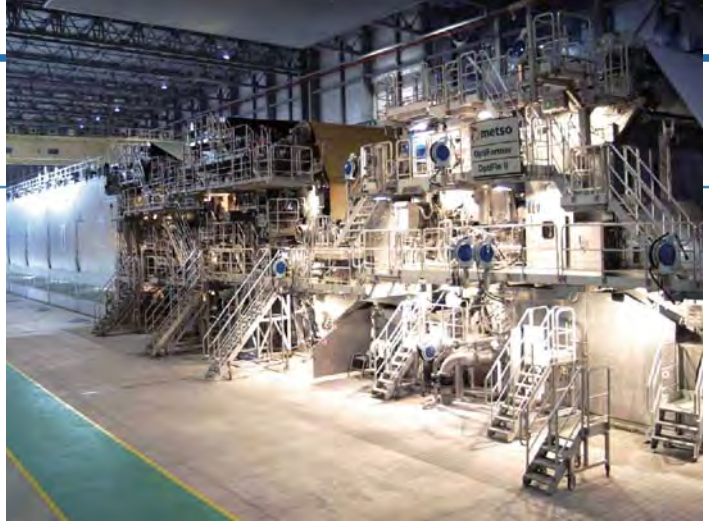
(2) 2015年10月1日以降は、ISO27001:2005は失効となります。

(3) 定期審査（維持審査や再認証審査）と併せて、2013年版への移行審査を受けることが出来ます。その際に、追加審査工数は不要です。

(4) 2014年9月30日までに定期審査を受けられる（審査の最終日がこの日まで）場合には、2005年版での審査か、2013年版への移行審査を伴う審査かを皆様が選択出来ます。

(5) 定期審査とは独立して、2013年版への移行審査だけをお受け頂くことも可能ですが、別途料金が発生致します。

※ご質問、ご不明な点等ございましたら、東京事務所　ISMS認証部（03-3669-7408）までお気軽にお問合せください。また、弊社ホームページに、2013年版に関する情報を掲載していますので、併せてご参照ください。


N6マシン

お客様紹介

# 日本製紙株式会社 石巻工場 様

（ISO14001：2004 認証登録）

審査員 美濃 英雄 Hideo Mino

日本製紙株式会社 石巻工場様は、豊かな水をたたえた北上川と海に囲まれた臨海工場として1938年（昭和13年）に設立されました。機械パルプ、化学パルプ、古紙パルプなどの多彩な原料を使い6台の抄紙機、2台の塗工機により、微塗工紙、コート紙、コピー用紙等、様々な紙を生産されています。2007年には、世界最大級の抄紙機でありますN6マシンを導入され、印刷用紙の単独工場としては世界トップレベルの生産能力を有されています。臨海工場として原材料の調達に適するだけでなく、首都圏に近い生産基地として製品の輸送に有利な点を生かして、高品質な製品の安定供給に邁進されています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、甚大な被害を受けられましたが、構内に大量に流れこんだ瓦礫を撤去し、津波で大きな被害を受けた生産設備の復旧を行い、2012年8月に完全復興を成し遂げられました。

ISO14001は1999年に取得されました。2013年10月の維持審査は、審査員2名で3日半に渡って実施しました。「騒音対策」「薬品の流出防止」「操業効率改善による環境負荷低減」「廃棄物の発生量抑制と有効利用」等を重点施策とされ、積極的な取り組みをされていました。

工場見学者の受け入れ、市・町の担当者、町内会代表などを集めてのコミュニケーション会議や懇親会などの開催により外部とのコミュニケーションも積極的に図られ、また関連会社にも環境教育を実施して、事業所全体の意識アップにも努められています。

石巻工場には5基の発電用ボイラーがあり、計20万キロワットの発電が可能です。最も新しいバイオマスボイラーは木くず廃材を主な燃料とし、以前使用していた重油ボイラーをバイオマスボイラーへ切り替えたことにより、重油を大幅に削減されました。また、工場から発生する製紙スラッジや外部委託処理の可燃物を燃焼することで、最終廃棄物を極小化されています。

さらに、バイオマスボイラーで燃焼した後に発生する焼却灰は、造粒・固化を行い、山砂と混合した土木資材として製品化されています。この資材は優れた締固め性能を有しており、埋戻し材・盛土材などに利用されています。石巻地区周辺の災害復旧工事にも利用され、震災復興にも貢献されています。

ボイラー

また、石巻工場には硬式野球部があります。1986年に発足した日本製紙石巻硬式野球部は、日本野球連盟所属の社会人野球チームとして活動され、2013年に東京ドームで行われた第84回都市対抗野球大会では準々決勝まで進出されるなど素晴らしい実績を残されています。地域の人を含めた応援ツアーも開催され、地域貢献活動も活発に行われています。

http://www.nipponpapergroup.com/about/factory_npi_ishinomaki.html

## 審査員リレーエッセイ㊷

From
静岡県三島市
**渡邉 寿彦**
（わたなべ としひこ）

Profile
専門分野：ISO9001・ISO27001－小売・卸、情報技術
経　　歴：東芝テック株式会社、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

### 「アマチュア無線で南極（昭和基地）との交信が夢」

自分がアマチュア無線を始めて今年で24年目を迎えます。自宅には大きなアンテナを建て、車にも約2m程のアンテナを設置しています。車で走行しながら北海道・沖縄・九州の方々と交信もしています。

10年位前に“こちらは8J1…”という声が聞こえたのを覚えています。それは南極の昭和基地から発信されたコールサインで、交信することはできませんでしたが、驚きました。何故、南極の声が聞こえてくるのかと言えば、電離層（地球上空にある電気の層）反射によるもので、無線機の出力に関係なく、アンテナの指向性が強ければより遠くに電波は届く仕組みとなっています。日本を除き、実績がある国はアメリカ（カリフォルニア、ハワイ、グアム）、ロシア、オーストラリア（シドニー）です。

残念ながら2013年12月時点で昭和基地との交信は達成できておりません（＾＜＾）！

## 連載「環境とISO14001」㊷

### 第42回「予防原則」

環境主任審査員　郷古 宣昭　Nobuaki Goko

**1. 予防原則とは何か**

化学物質のリスクを考える場合に避けて通れないのが「予防原則」であり、その意味は「疑わしきは黒とみなして対策を取る」ということです。

この考え方は鉱山や工場の排水に含まれる有害化学物質が深刻な被害を与えているのに、化学物質と被害との因果関係を示す証拠が十分でないために規制できず、深刻な被害の拡大を招いた公害の歴史的教訓に由来しています。予防原則は1970年頃から既に議論されていて、1990年代には国際的な合意や条約、更にはリオ宣言にも取り入れられるなど、不確実なリスクに対する行動原則・政策原則として定着しました。

**2. 予防原則の3つのバージョン**

予防原則の「予防」の原語はprecautionaryで、「警戒する」の意味ですので、そのニュアンスを汲み取ることが重要です。予防原則は3つのバージョンに整理できます。

Ver1: 因果関係が不確実であることを規制等の行動を行わない理由としてはならない。
Ver2: 因果関係が不確実であることは、規制等を行う正当な理由となる。
Ver3: 因果関係に不確実性があれば、そのリスクが受容可能なレベルになるまでその活動は禁止されるべきである。

Ver1は、鉛入りガソリンに関するE社とEPA（環境保護局）の訴訟において、有害性の根拠が不確実なのに規制するのは不当であるというE社の主張を裁判所が退けたことから始まったと言われています。ただし、これはEPAの規制行動を許可しているだけで、規制を強制しているわけではありません。これに対してVer2は一歩進んで有害性や因果関係の不確実性は、製造禁止・制限、警告、代替品切替え等の規制介入を求めています。Ver3は記載の通りであり、その実行責任は活動から便益を受ける（事業者）側にあることを示しています。

**3. 予防原則を適用する際に留意すること**

鉱山や工場からの排水のように影響が一方的な場合は一つのリスクだけを問題にして予防原則を断固として貫けばよいが、現実にはリスクは複数あって、それらは相互に関係し合い、多くはトレードオフになっていることが多いようです。

殺虫剤DDTは残留性が高く、鳥類への影響が大きいため、先進国では1970年代に製造・使用を禁止しました。ところが、マラリアの感染地域ではDDTの散布を止めたことによってハマダラカが増え、マラリアで死ぬ人が急増しました。結局、DDTの製造は続いており、地域限定で今でも使用されています。

私たちは多重リスク社会で生きています。ある対策によって他のリスクが増大したり、新たなリスクが発生することがあり得ます。また、「疑わしきは対策する」といっても的が外れていれば、膨大なコストがかかります。

予防原則を基本的行動原則として堅持しつつ、その実践の場では、①規制や対策に関連するあらゆるリスクを洗い出し、②それらの相互作用を推定し、③総合的な視点から対策を決定する必要があります。また、対策実施後も④有害性や因果関係の不確実性を最小化する努力を続けること、⑤対策処置の有効性を検証することが重要です。目指すのは予防処置や規制の最大化ではなく、最適化です。

次回はCOP19ワルシャワ会議の結果について取り上げます。

# 感動創造企業として

株式会社平田牧場（ISO9001：2008認証登録）　管理部 総務課　高瀬 周

当社は山形県酒田市に本社を置き、品種と飼料、飼育環境にこだわった、安心して食べられる美味しい豚肉や加工品を生産してまいりました。東京ミッドタウンやKITTE丸の内といった都内有数の商業施設で美味豚肉料理を提供する飲食店として、また現在は国策としてすっかり定着した（減反田を活用し、食料自給力アップを目指す）飼料用米の利用推進運動の旗手としてご存知の方も多いかもしれません。お陰様で今年で創業50周年を迎え、「平牧三元豚」「金華豚」は国内屈指の銘柄豚として広く認知して頂けるようになりました。特に中国浙江省原産の種豚を当社独自の飼育技術で育て上げた「金華豚」は「豚肉の常識を覆す幻の豚肉」として高い評価を頂いております。ご興味のある方は当社直販サイト（www.hiraboku.com）をご覧頂ければ幸いです。

2009年にISO9001、さらに2013年には食肉加工を行っている関連会社でISO22000も取得し、更なる改善活動に向け取り組んでいます。これからも「より豊かな食生活・食文化を提案する感動創造企業」として時代の先を行く豚肉を生産して参ります。皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▶http://www.hiraboku.info/

# 震災を乗り越えたものづくりへの思い

株式会社クラタ耐火物（ISO9001：2008認証登録）　代表取締役社長　倉田 泰輔

広野工場

当社はその名の通り「耐火物」を製造・販売しています。「耐火物」は一般的にはなじみの少ないものであり、「耐火物」という言葉を初めて聞く方も多いと思いますが、実は様々な産業で使われています。皆さんが普段目にする、例えば鉄やガラス、自動車、またパソコンやスマートフォンなどに使われている電子部品を作る際には必ず耐火物が必要となります。このように耐火物は様々な産業を支えており、私達は世の中に必要不可欠なもの作っているという責任や喜びを感じながら、日々ものづくりに取り組んでいます。

当社は戦前の1932年に東京都大田区で創業し、1992年には福島県広野町に工場を移転しました。創業以来、熟練の技術・技能で高品質な製品を提供し、2008年に取引先からの要請に加え、組織力強化を目的にISO9001を取得しました。

職人の技術や技能の継承にもシステムを活用し、更なる品質向上を進めていましたが、3年前の東日本大震災及び福島第一原子力発電所の爆発事故により被災し、従業員は避難を余儀なくされ、工場は休業状態となってしまいました。当社広野工場が、福島第一原発20km圏内の警戒区域からわずかに外側の23kmに位置し、また当時の風向きにも助けられ放射線量も比較的低く、緊急時避難準備区域という立ち入ることが可能な場所だったことは不幸中の幸いでした。従業員全員が避難生活をするという状況ではありましたが、お客様に迷惑はかけられないという思いから操業を再開することを決意しました。そして、従業員一丸となり地震で被害を受けた工場の片づけを行い、震災から約1か月後の4月中旬に操業を再開することができました。

再び従業員が集まり、当社がものづくりを続けていられるのは、多くの方々からの励ましやご支援をいただいたほかにありません。皆様への感謝の気持ちを忘れずに、これらも真摯にものづくりに取り組んでいきたいと思います。

▶http://kurata-taikabutsu.co.jp/

# 社名変更のお知らせ

本年4月2日をもちまして、以下の通り社名変更をいたしました。

**新社名：インターテック・サーティフィケーション株式会社**
**（英文表記：Intertek Certification Japan Limited）**
**変更日：2014 年 4 月 2 日**

※社名変更に伴う、住所・電話番号等の変更はございません。

これからもより一層、皆様方にご満足いただけるよう、社員一同、心を新たに業務に邁進していく所存です。
今後とも変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。
ご不明な点、ご質問等ございましたら、お気軽にお問合せください。

# 研修コースのご案内

## 内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- **内部監査員コース**
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

**開催地** 東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

**対象者**
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定/検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

## 審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001：IRCA認定 審査員研修コース　（5日間）
- ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース　（3日間）
- OHSAS18001：IRCA認定 移行型審査員研修コース（3日間）

**開催地** 東京

**対象者**
- 審査員の目で内部監査を行いたい
- 内部監査グループのリーダーに任命された
- 将来審査員を目指している

## 受講生からのお便り

### ISO14001：2004内部監査員研修コースを受講して

環境内部監査員コース（2013年11月大阪会場）受講
株式会社尾賀亀 販売部　**元木 千春**

弊社は滋賀県にございまして、石油製品、砂糖・小麦粉等の販売卸をさせて頂いております。今回社内にてISO14001内部監査員に任命されましたので、2日間の研修に参加させて頂きました。果たして自分にこなせるのか緊張の2日間でしたが、他に女性の受講生も参加されていたり、講師の方ともアットホームな雰囲気の中で学ばせて頂くことができました。また、同業者の方もいらしたので、休み時間や終了後に不明点などを確認し合えましたし、終了後にもかかわらず講師の先生にも質問に快く親切丁寧に教えて頂けました事を大変感謝しております。

こちらで学ばせて頂いたように、環境のみならず経営にもプラスになるISO活動ができるように、改善の意識を常に持ち続けてまいりたいと思っております。

講師の方、スタッフの方々、どうもありがとうございました。

**インターテック・サーティフィケーション株式会社**　http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm
東京事務所　〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル4F　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003　大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com